

<下妻会長>

【「100日タスク」の発表】

関経連会長に就任し、皆さんともお話しをして、今までの関経連の活動について、1回整理をしてみよう、その整理には3ヵ月はかかるだろうということで検討をしてきた。結果的には、若干センセーショナルな表題の「100日タスク」という形で、本日の正副会長会議において合意が得られた。

記者の方々からは、合理化策が出るのではないかといった期待があったようだが、我々は一つの事業体ではないので、今まで継続しているものについて、これはいらぬとか止めるということは、他に関わっていただいているの方々に対しても大変失礼で不遜なことであり、内容に盛り込んでいない。

また、前任の会長から引継ぎを受けた時に、関係する団体（関経連会長が兼務している団体の役職）が約260あると言われた。さらに精査したところ、186あることがわかった。ところが186の役職の中にも、“ついでに名前を挙げさせて”という類のものが大変多く、それらを捨象すると、結果的には23件ぐらいが、我々の関経連としての活動における主たる業務の一環ということになった。一方で残る163件については、“全く無関心という訳ではないが、それほど労力をかけなくてもいい”という認識が事務局も含めてなされた。継続している23件をきっちり大事にしながら、「100日タスク」の趣旨に則って、先々の運営をしていきたい。また、来年の事業計画にも織り込みながらやっていきたい。

関経連は戦後間もない混乱の時期に設立されたが、その時に掲げた理念がそのまま継承され、事業が肥大化してきているというのが実態なので、この機会に一度、基本理念、あるいは運営の考え方をよく整理しようということが今回の「100日タスク」ということになった。本日は、その内容について記者の皆様方にご説明をし、ご批判を仰ぎながら話を進めていきたい。

神田 タスクフォース・リーダー（地域G次長）より「100日タスク」説明（略）